

## 日本経済 ～天候不順は消費にダメージ～

経済調査部 熊野 英生

### 天候不順が足を引っ張る

7～9月の消費動向を考える上で、異常気象による天候不順と、大雨などがもたらした自然災害は大きな痛手になりそうだ。7・8月を振り返るだけでも、7月上旬の台風8号、7・8月をまたいだ台風11・12号による大雨は、西日本を中心に大きな被害をもたらした。また、8月中旬には各地で集中豪雨による土砂災害が発生した。これらは個人消費にも少なからぬ悪影響を及ぼしたと推察される。

すでに明らかになっている7月中の個人消費についてみてみると、総務省「家計調査」では、2人以上世帯の消費支出が、名目・季節調整値で前月比▲0.1%、実質では前月比▲0.2%となった。内訳は、エアコン販売が落ち込み、パック旅行の減少が目立つなど、天候不順の影響が表れている。4～6月までのエアコン販売の週次データをみてみると、消費税の反動によって家電販売が不振の中でも、気温が高い時期があると、エアコン販売が伸びて全体の販売額を牽引する場面もあった。それが7月は天候が悪くなったことが災いし、販売減に振れたのである。旅行については、台風などで航空機ダイヤが乱れたことが響いた可能性もある。いくつかの8月の消費データを観察しても、家電販売、食料品の販売状況が振るわないのは、7月と同様に天候不順が響いているからだろう。

### 正念場になる夏場の景気

筆者を含めて多くのエコノミストは、7～9月の経済成長率が駆け込み需要の反動減の大きかった4～6月に比べて大きくリバウンドすると期待した。背景には、安倍晋三首相が12月にGDP統計の結果などを確認して、2015年10月の消費税率の引上げを最終判断する意向

を示していることがある。もしも、天候不順の影響が色濃くなって、予想以上に7～9月の経済成長率が悪い結果になっていけば、安倍首相が消費税率を引き上げる計画を、延期ないし中止する可能性も出てくる。もしもそうなれば、財政再建に黄色信号が点ることになる。エコノミスト達が注目するのは、景気拡大の流れが途絶えることなく、財政再建の路線が堅持されるかどうかだ。今から12月までの景気観測はまさしく正念場を迎える。

### 物価高騰も追い討ち

わが国の個人消費は、4月の消費税増税と、7・8月の天候不順と相次いで試練を受けている。こうした試練を乗り越えられるかどうかは、消費の地力にかかると考えられる。14年春以降の賃金は、春闘でベースアップが進んだこともあり、緩やかに増加基調に転じている。ただし、同時に進んでいる消費者物価上昇のペースに比べると、まだ物価上昇を上回るには至っていない。賃金上昇率が、消費者物価の伸び率を下回るようであれば、実質賃金はマイナスの伸びということになる。

そのほかに、物価面でも伏兵が潜んでいて、2014年に入ってから天候不順の影響があって生鮮食料品の価格が上昇して4～6月は2桁の伸びになった。おそらく、7・8月の天候不順も、生鮮食品などの価格高騰を促している。そうした要因も消費者の購買力を抑制させていると考えられる。消費の地力が、天候不順や価格高騰に脅かされても、なお拡大基調を辿ることができれば、そのときは基調的なデフレ脱却の機が熟したと言える。

くまの ひでお（首席エコノミスト）